令和３年　第４回

戸田市教育委員会定例会

令和３年４月１５日

戸田市教育委員会

第４回教育委員会（定例会）次第

１　開会

２　前回の会議録の承認

３　報告事項　　別添　資料№.１のとおり

４　議事　　ページ

（１）専決処理事項の報告

報告第　５号　戸田市立小・中学校通学区域審議会５号委員の変更について‥‥‥‥‥‥‥１

報告第　６号　令和３年度戸田市就学支援委員会の委嘱について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥当日配付

（２）議案

議案第２０号　戸田市教育委員会事務局組織規則の一部改正について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥２

５　その他

（１）次回の教育委員会の日程（案）

令和３年５月２０日（木）午前９時３０分～

（２）その他

６　閉　　会

議案第２０号

戸田市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則（案）

戸田市教育委員会事務局組織規則（昭和４８年教育委員会規則第５号）の一部を次のように改正する。

第４条第７項中「及び第９条」を「、第８条及び第１０条」に改める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

戸田市教育委員会事務局組織規則新旧対照表

改正前	改正後（案）
第１条～第３条　（略） （職及び職務） 第４条　（略） ２～６　（略） ７　教育部長、参事、参与、次長、室長、副参事、課長、担当課長、主幹、副主幹、主査、主任、専門員、主事、技師、主事補、技師補、統括主任業務員、統括主任調理士、主任業務員、主任調理士、業務員及び調理士の基本的な職務は、戸田市行政組織規則（平成１７年規則第７号）第７条及び第９条から第１７条までの規定を準用する。 ８～１２　（略） 第５条・第６条　（略） 附　則　（略）	第１条～第３条　（略） （職及び職務） 第４条　（略） ２～６　（略） ７　教育部長、参事、参与、次長、室長、副参事、課長、担当課長、主幹、副主幹、主査、主任、専門員、主事、技師、主事補、技師補、統括主任業務員、統括主任調理士、主任業務員、主任調理士、業務員及び調理士の基本的な職務は、戸田市行政組織規則（平成１７年規則第７号）第７条、第８条及び第１０条から第１７条までの規定を準用する。 ８～１２　（略） 第５条・第６条　（略） 附　則　（略） 附　則 この規則は、公布の日から施行する。

資料　ＮＯ．１

報告事項

令和３年４月１５日

戸田市教育委員会

1　報告事項

ページ

① 令和２年度入学準備金貸付内訳について……１
（教育総務課）

② 令和３年度第１回奨学資金貸付内訳（新規分）について……２
（教育総務課）

③ 戸田市立小学校卒業児童の私立中学校等への進学者数について……３
（学務課）

④ 令和３年度児童生徒数及び学級数について……４
（学務課）

⑤ 「令和３年度 指導の重点・主な施策」について……別紙１
（教育政策室）

⑥ 「令和２年度 戸田市教育研究集録」について……別紙２
（教育政策室）

⑦ 令和３年度学校公開日等一覧……５
（教育政策室）

⑧ 令和３年度 南部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問の予定について……６
（教育政策室）

⑨ 彩湖自然学習センターの一部再開（３月２２日から）について……７
（生涯学習課）

⑩ 青山学院大学・戸田市連携講座の開催について……９
（生涯学習課）

⑪ 市内中学校の生徒指導案件について……当日配付
（教育政策室）

⑫ その他

令和2年度入学準備金貸付内訳について

学校種別		貸付単価(円)	人数(人)	貸付金額(円)
高等学校 高等専門学校 専修学校(高等課程)	国公立	300,000	3	900,000
	私　立	500,000	5	2,500,000
大学・短期大学 専修学校(専門課程)	国公立	400,000	1	400,000
	私　立	600,000	11	6,600,000
合　　計			20	10,400,000

申請者	23人
貸付決定者	23人
貸付済者	20人
貸付辞退者	3人
未貸付者	0人
貸付不決定者	0人

報告事項②

令和3年度第1回奨学資金貸付内訳（新規分）

学校種別		貸付単価（円）（年額）	人数（人）	貸付金額（円）
高等学校 高等専門学校 （1学年から3学年） 専修学校（高等課程）	国公立	120,000	1	120,000
	私　立	180,000	6	1,080,000
大学・短期大学 高等専門学校 （4学年及び5学年） 専修学校（専門課程）	国公立	240,000	1	240,000
	私　立	300,000	6	1,800,000
合　　計			14	3,240,000

貸付申請者数　　14人

貸付決定者数　　14人

戸田市立小学校卒業児童の私立中学校への進学者数について

	令和3年度			
学　校　名	A:卒業者数(人)	B:私立等進学者数(人)	Bの前年度差(人)	B/A×100(%)
戸田第一小学校	169	19	△ 4	11.24%
戸田第二小学校	162	10	△ 9	6.17%
新曽小学校	114	7	0	6.14%
美谷本小学校	59	3	2	5.08%
笹目小学校	55	2	0	3.64%
戸田東小学校	145	19	△ 4	13.10%
戸田南小学校	117	18	4	15.38%
喜沢小学校	53	5	3	9.43%
笹目東小学校	123	7	5	5.69%
新曽北小学校	119	13	△ 4	10.92%
美女木小学校	93	5	0	5.38%
芦原小学校	111	10	0	9.01%
合計	1320	118	△ 7	8.94%

※　私立中学校等(国立中学校、私立中学校)

過去3年間の進学率

年度	進学率(%)
平成30年度	9.11%
平成31年度	9.12%
令和2年度	9.42%

報告事項④

令和3年度児童生徒数及び学級数について

学校名		児童数(上段)・学級数(下段)								
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	計	前年度差
戸田第一小	児童数	148	141	147	175	154	171	23	959	△ 22
	学級数	5	5	4	5	4	5	4	32	△ 1
戸田第二小	児童数	152	173	152	168	168	171	13	997	△ 3
	学級数	5	5	5	5	5	5	2	32	△ 1
新曽小	児童数	141	109	124	79	104	98	11	666	26
	学級数	5	4	4	2	3	3	3	24	3
美谷本小	児童数	49	58	52	40	56	57	3	315	△ 4
	学級数	2	2	2	1	2	2	1	12	0
笹目小	児童数	48	46	49	45	48	45	9	290	0
	学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	△ 1
戸田東小	児童数	196	196	215	160	182	158	10	1117	60
	学級数	6	6	6	4	5	4	2	33	3
戸田南小	児童数	156	122	125	105	115	122	13	758	36
	学級数	5	4	4	3	3	4	3	26	3
喜沢小	児童数	56	56	59	53	60	71	13	368	11
	学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	0
笹目東小	児童数	92	100	98	119	121	115	26	671	△ 37
	学級数	3	3	3	3	4	3	4	23	△ 1
新曽北小	児童数	114	110	127	115	119	126	19	730	△ 9
	学級数	4	4	4	3	3	4	3	25	1
美女木小	児童数	93	113	125	119	108	113	10	681	△ 9
	学級数	3	4	4	3	3	3	2	22	△ 1
芦原小	児童数	103	130	107	112	148	112	0	712	△ 16
	学級数	3	4	3	3	4	3	0	20	△ 1
合 計	児童数	1348	1354	1380	1290	1383	1359	150	8264	33
	学級数	45	45	43	36	40	40	29	278	4

学校名		生徒数(上段)・学級数(下段)								
		1 年	2 年	3 年				特支	計	前年度差
戸田中	生徒数	204	216	202				20	642	△ 30
	学級数	6	6	6				4	22	1
戸田東中	生徒数	160	129	117				2	408	46
	学級数	4	4	3				1	12	2
美笹中	生徒数	97	98	111				14	320	15
	学級数	3	3	3				3	12	1
喜沢中	生徒数	161	186	196				14	557	△ 2
	学級数	5	5	5				2	17	1
新曽中	生徒数	354	346	304				0	1004	56
	学級数	9	9	8				0	26	1
笹目中	生徒数	202	188	189				14	593	1
	学級数	6	5	5				3	19	1
合 計	生徒数	1178	1163	1119				64	3524	86
	学級数	33	32	30				13	108	7

（別紙１）
報告事項⑤

やさしいまちに、なりたい。

令和３年度

指導の重点・主な施策

とだっこ　やり抜く力で　未来に夢を

戸田市教育委員会

戸田市教育委員会facebook

「指導の重点・主な施策」について

新学習指導要領が小学校に続き、今年度から中学校においても全面実施となった。これまでも育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、これからの時代に求められる子供たちが身に付けるべき資質・能力が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で再整理されている。こうした資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善をさらに充実させていくことが重要である。

戸田市教育委員会では、「戸田市の教育振興に関する大綱」（令和３年４月策定）及び「第４次戸田市教育振興計画」（令和３～７年度）を基盤に、国や県の動向や各学校の実態を踏まえ、戸田市の子供たちがこれからの変化の激しい時代を主体的に生き抜き、よりよい豊かな未来の創り手となれるよう、各施策を実施する。

この「指導の重点・主な施策」は、各学校で行う教育活動の指針を編集したものであり、手の届くところに置かれ、授業づくりの一助となるよう作成した。各学校においては、自校の実態に即して本冊子を十分に活用し、令和３年度の指導の重点を明確にし、学校教育の充実を図られたい。

第４次戸田市教育振興計画

★基本理念：生き生きと　共に育む　教育のまち　戸田
★キャッチフレーズ：とだっ子　やり抜く力で　未来に夢を
★方針１：子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現
★方針２：多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような
　　誰一人取り残さない学びの保障
★方針３：地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供
★方針４：個別最適な学びの実現に向けたＥＢＰＭの推進

←計画本文、紹介動画はこちら

■令和３年度　戸田市立小・中学校における標準授業時数について

＜小学校＞

	各教科									特別の教科である道徳	外国語（英語）活動	外国語（英語）	総合的な学習の時間	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第１学年	306	*	136	*	102	68	68	*	102	34	*	*	*	34	850
第２学年	315	*	175	*	105	70	70	*	105	35	*	*	*	35	910
第３学年	245	70	175	90	*	60	60	*	105	35	70	*	35	35	980
第４学年	245	90	175	105	*	60	60	*	105	35	70	*	35	35	1015
第５学年	175	100	175	105	*	50	50	60	90	35	*	70	70	35	1015
第６学年	175	105	175	105	*	50	50	55	90	35	*	70	70	35	1015

＜中学校＞

	各教科									特別の教科である道徳	総合的な学習の時間	特別活動	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語（英語）				
第１学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
第２学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
第３学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

※小学校中学年における外国語（英語）活動の実施について

本市全小学校は、中学年の「総合的な学習の時間」を 35 時間削減し、外国語（英語）活動を 35 時間実施することが可能となっている。これは、学習指導要領等の教育課程の基準によらない特別の教育課程の編成・実施を可能とする特例校（教育課程特例校）（令和２年１月 22 日文部科学大臣承認）となっていることに基づくものである（期間は、次期教育課程変更日まで）。

※小学校新学習指導要領における外国語（英語）活動及び外国語（英語）科への短時間学習の導入について

本市の中学年の外国語（英語）活動については、平成 15 年から 35 時間実施しているが、さらなる英語教育の充実を図るために３５時間増とし、合計 70 時間とする。中学年、高学年の 35 時間分の実施方法については、15 分間の短時間学習を３回行うことにより１単位時間（45 分間）に換算することとする。

なお、低学年については、余剰時間や短時間学習も含め 20 時間程度とする。

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な５つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点１と視点５は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。【目指すべき目標・評価規準の設定等】

□指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。
□本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
□児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）

2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。【主に主体的な学びの視点】

□本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。（※１）
□自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている児童生徒への）支援方法を準備し、実行することができたか。
□自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
□学習活動は、目標の実現につながっていたか。

3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。【主に対話的な学びの視点】

□児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか。
□児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具（タブレットＰＣ・ホワイトボード・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていたか。
□目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化（板書、ＩＣＴ等を使って示すこと）できたか。（※２）

4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。【主に深い学びの視点】

□児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
□児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
□児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。

5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。【学びの評価・振り返り】

□評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する（キャッチ＆レスポンスする）ことができたか。
□目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
□児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。（※３）

※１～３は、令和元年度達成率が低かった事項である。※１と※３は授業の根幹であるため、見通しと振り返りの時間を必ず設定することが不可欠である。※２は児童生徒が考えた、話した結果をアウトプットし、考えを再構築することで深い学びにつなげる手立てである。

Ｒ０１達成率	※１　小 88%、中 67%	※２　小 54%、中 34%	※３　小 63%、中 44%
Ｒ０２達成率	※１　小 69%、中 66%	※２　小 57%、中 56%	※３　小 45%、中 52%
Ｒ０３目標値	※１　小中ともに 90%	※２　小中ともに 60%	※３　小中ともに 70%

Ｒ０１，Ｒ０２達成率の数値は、学校訪問で先生が自分の授業を評価したものである。

指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイントについて
～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

昨年度も、**埼玉県学力・学習状況調査**の結果及び**指導用ルーブリック**を活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（小学校17名、中学校11名）へのインタビューを行った。質問事項としては、主に『**①子供たちの学力を伸ばすために意識していることは何か**』と『**②支援を必要としている児童生徒への対応について**』である。以下は、インタビューの内容に基づく、**効果的な指導方法（グッドプラクティス）**である。

子供の学力を伸ばす　３箇条＋α

主にルーブリック１、２に関わって

1 子供にとって分かりやすい指示出しや発問

〈分かりやすい指示出し・発問〉

①はっきりと１度で言う。
（日頃から指示等を繰り返していると１回で話を聞かなくなる）
②聞き取りやすい速さで、抑揚をつけて話す。
（特に大事なところはゆっくり話す　など）
③子供に正対し、子供を見て話す。
④「今から指示をします」など、前置きして指示を出す。
⑤口頭のみではなく、板書やＩＣＴを活用して指示内容を残す。
（指示の見える化）

主にルーブリック１～３に関わって

2 教師が子供の意見を聞き、子供に任せる、学習者を尊重する授業づくり

こんなことありませんか？

・全体の前で子供に説明させると時間がかかり、予定通りに授業が進まない。
・教師が説明する方が授業がスムーズに進む。
・子供一人一人の取組を見取る時間がない。
・子供に活動を任せると授業が成り立たない。

このように改善してみましょう！

(1) 子供が説明できる場面をつくる。

例：学習した内容を振り返ったり、新出用語の意味を指導したりする場面

(2) 子供に活動を任せる＝放任するではない。
活動を任せるときは前もって以下を子供に伝えておく。

① **課題**（何をやるべきか、ゴールを明示するなど見通しを示す）
② **時間**（いつまでに行うか、何分間で行うか）
③ ゴールに迫るための**手立てや条件**、**方法**

(3) 子供の活動状況を把握して、励ましたり、認めたりする。

教師が肯定的に接することで、子供は自己肯定感を高め、更に意欲的に授業に参加するようになる。

【留意点】
次のような場合は、子供の活動を止め、改めて全体指導することも必要である。

例：話合いがずれてきたとき
目的から意図する学び合いになっていないとき

3 「引き出す」「つなげる」「深める」をキーワードとした授業づくり

主にルーブリック2～5に関わって

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業にするためには、教師が必要以上に話をせず、子供たちから考えや興味や関心を**「引き出す」**、子供の意見や考えを他の子供に**「つなげる」**、一人一人の子供の意見や考えを**「深める」**ことが重要である。

①子供の意見や考えを「引き出す」

引き出す

【「引き出す」ための教師の働きかけ例】

- 子供の意見や考え方に対して**肯定的な接し方**（うなずき、繰り返し）を心掛ける。このことにより、子供が安心して発言する環境づくりにつながっていく。
- 子供の**つぶやき**を聞き逃さないようにする。

②子供の意見や考えを他の子供に「つなげる」

つなげる

【「つなげる」ための『教師の問い』例】

「○○さんがどのように考えたか、分かりますか」「○○さんの考えを別の表現で言えますか」「○○さんの考えでいいところはどこだと思いますか」「○○さんがこのように考えた理由が分かりますか」など、子供の意見や考えを教師が他の子供につなげることで、**子供同士の深い学びを生むきっかけづくり**をする。

③一人一人の子供の意見や考えを「深める」

深める

【「深める」ための教師の働きかけ例】

「振り返り」の場面で「大切だと思ったこと」「これから使ってみたいと思った考え方」など、**振り返る視点**を子供に示す。

＋α（その他）

①メリハリのある授業づくり

- 説明や発問の後に**「間」**を入れて考える時間を確保する。**「間」**を入れることで、ほどよい緊張感を子供に与えることができる。
- 子供がつまずいた場合、１時間の授業が充実感を感じられず終わってしまうことがある。１時間の授業で活動の種類（聞く、話す、書く、読むなど）を変えることが必要である。**「どの子供でも１時間の授業のどこかで主体的に活動できる内容を入れる」**ことが大切である。

×悪い例
- １時間の授業でずっと教師が話をする。
- １時間の授業でずっと問題を解き続ける。

○改善例
- 子供が考えてペアやグループで意見交換する機会を設定する。
- 区切りをつけて丸付けの時間や友達との教え合いの時間を設定する。

②子供が安心して学習できる環境づくり

授業中、間違えて答えた子供に対して・・・

教師が答えた子供を叱る
↓
子供は「間違えることは恥ずかしいこと、いけないこと」として認識する。

- 子供が頑張って挑戦したことを認める。
- 嘲笑する他の子供を注意する。

↓

子供は**「教室は安心して挑戦できる場」**として認識する。

戸田型PBL（Project-Based Learning）の考え方 3

戸田型ＰＢＬとは？

そもそも Project って何？

正解の無い未知の課題を実際に解決していくこと。

※プロジェクトの語源は、未知の状況（pro）に、自分を投げ入れる（ject）こと。

Project

Based Learning

課題

解決

学習

戸田型ＰＢＬ（課題解決型学習）の定義

具体的な誰かの要望や自身の願望にもとづき、何をしていくか（課題）を決め、期限内にその目標の達成や理想の実現（解決）を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身に付ける社会に開かれた探究的な学び（学習）

戸田型ＰＢＬ（課題解決型学習）にするための要件

単元設計の際に、下記６つの要件が考えられているかを確認すること。

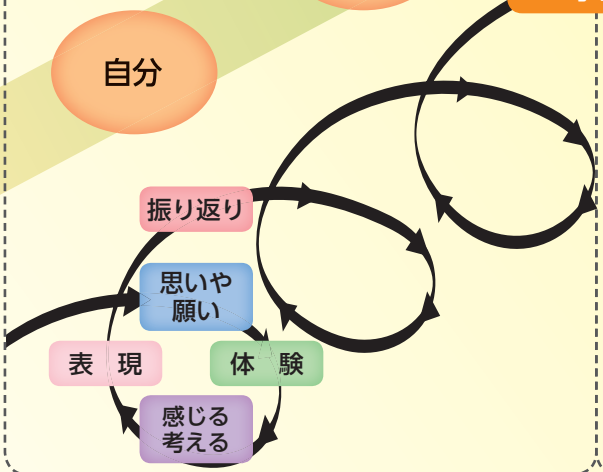
下記「▲」の段階から、「◎」のように一歩進めることが戸田型PBLにおいて大切

- ☐ 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である
  - ▲水害を調べて発表しよう ⇒ ◎必要な防災グッズを親に提案し、家族を守ろう！
- ☐ 「あなたなら何をするか？」という実行方法を問う課題である
  - ▲食品ロスとは何かを考えよう ⇒ ◎食品ロス防止のために私達に何ができるだろうか？
- ☐ 解決（目標の達成、理想の実現）をしたかの基準が明確である
  - ▲漠然とゴミを減らせたらゴール ⇒ ◎1人1日100gの家庭ゴミを減らせたらゴール
- ☐ 解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある
  - ▲最終結果をまとめて発表した ⇒ ◎未解決理由を探り、改善策を考え（実行し）た
- ☐ 振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す時間がある
  - ▲チェックシートに〇×を付ける ⇒ ◎何を学び、どう活かすか等を子供自身が言語化する
- ☐ 下図のようなプロセスを繰り返し、学びを段階的に発展させている
  - ▲プロセスを繰り返している ⇒ ◎発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方2』を参照

戸田型ＰＢＬの発展イメージ

生活科

低学年における PBL は生活科そのものである。低学年においては、課題＝思いや願いと捉え、思いや願いの実現に向けて活動していくことが大切である。



総合的な学習の時間

中学年以降の総合的な学習の時間においては、単元全体を探究的な学習のプロセスを基に構成し、自らの考えや課題を新たに更新することができるよう
①課題の設定　②情報の収集
③整理・分析　④まとめ・表現
の探究の過程を「⑤検証・振り返り」まで含めて繰り返し、学びを段階的に発展させることが大切である。

発展の具体例は、『戸田型PBLの考え方２』を参照

リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善３
～研究校の実践に基づいた授業メソッド～

汎用的な基礎的読解力を測定するリーディングスキルテスト（RST）は、人間の読解プロセスである６つの視点（①係り受け解析②照応解決③同義文判定④推論⑤イメージ同定⑥具体例同定）から作成されている。市内のRS研究校では、この６つの視点を取り入れた授業改善に取り組んでいる。

導　入　～本時の問題（課題）を正しくつかめるようにするために～

□教師が提示した問題文（課題）**を正しく読めているか**確かめる。（①～⑥の視点全てに関わる）
□問題文や目標等を子供たちに視写させる際は、教師が何を書くのかを口頭で伝えてから板書し、教師と共に書き終える。**（共書きをする）**（①～⑥の視点全てに関わる）
□問題（課題）から**授業で何を学習すればよいのか**を子供たちに問う。（⑥具体例同定）

指導のPoint
○「この言葉の意味は分かりますか（どんな意味でしょうか）」と問う。
特に教科内容以外の**一般的な言葉**にも留意する。
【令和元年度　戸田市教育研究集録ｐ４-５参照】
○「今日の授業では、どんなことを学習するとよいでしょうか」と問う。
問題（課題）を正しく解釈できるようにするとともに、本時の**ゴールイメージの共有**へつなげる。

展　開　～子供たちの理解を深めるために～

□文章に書かれていない主語や述語を**補う**。（主語や述語を問う場合もある）（①係り受け解析）
□指示代名詞（**それ、これ**など）**が示す言葉**を明確にする。（②照応解決）
□**根拠**に基づき考えを発表したり、グラフや表等から**事実**を読み解いたりする活動を行う。（④推論）
□**文章**で書かれていることを**絵や図等**で表現する活動を取り入れる。（⑤イメージ同定）
□**理解が曖昧**な言葉は、教科書や辞書等を使って調べるようにする。（③同義文判定・⑥具体例同定）

指導のPoint
○**教師が教科書をよく読み**、事前に子供たちが読みつまずきそうな所や定義文（例：～とは…である）等を把握しておく。
○図やグラフ等を必要に応じて**関連付け**ながら学習できるよう事前に準備しておく。（**具体**の世界と**抽象**の世界とをつなげることが大切）

終　末　～授業を振り返ることができるようにするために～

□**今日学んだことから**「わかったこと」「わからないこと」「次回考えたいこと」「よかった友達の考え」などについて、子供たちが**振り返る場面**をつくる。（①～⑥全てに関わる）
□**新しく学んだ用語**を使って、文章を書く場面をつくる。（⑥具体例同定）

指導のPoint
○ただ漠然と「今日の学習を振り返りましょう」と指示せず、教師が**視点を示して**から振り返らせる。また、子供たちが板書やタブレット等をもとに振り返ることができるよう、**学習のあしあと**を残していく。

過去の関連資料等

R01 RST の視点に基づく授業改善２

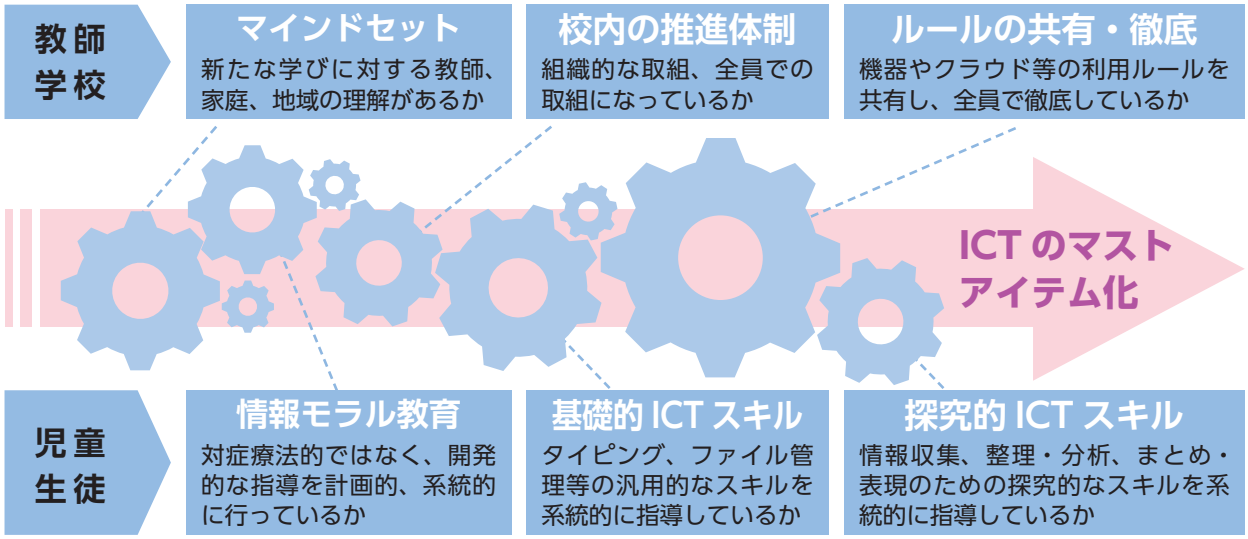
H31 RST の視点に基づく授業改善１

教育のための科学研究所 HP

一人一台PC活用推進に向けて～「令和の学び」を加速化～

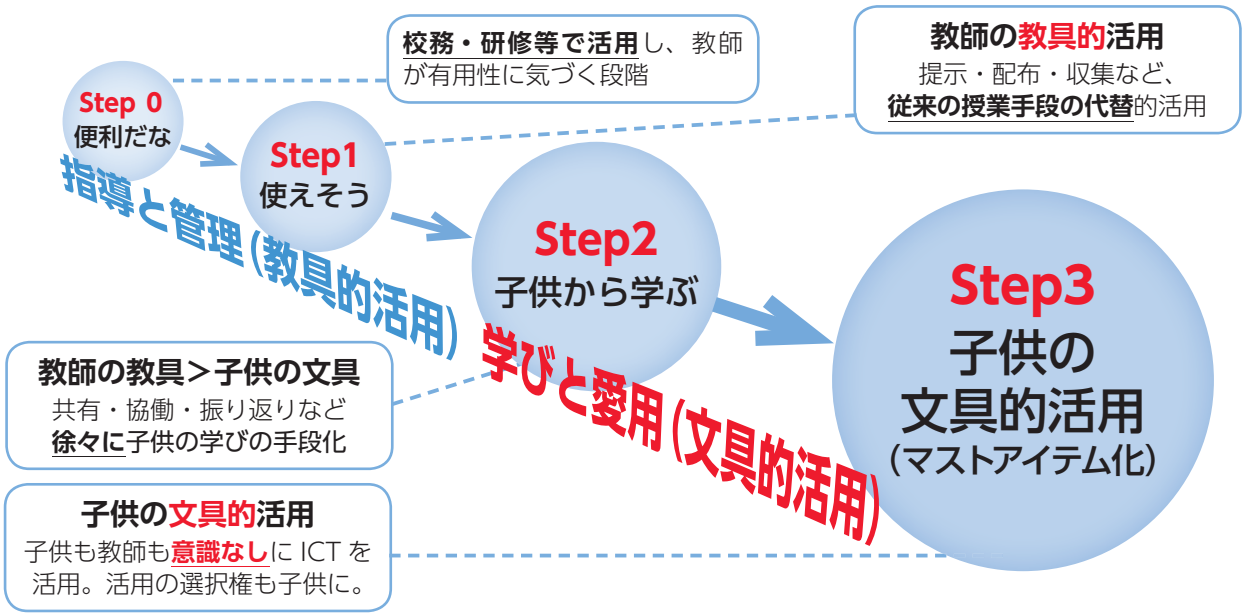
① ICT活用推進の視点

ICTのマストアイテム化の実現のためには、学校における組織的な取組と児童生徒への系統的な指導が必要である。以下の視点を参考に各学校の課題を整理し、解決に向けて取組を行う。



② ICT活用のステップ「教師の教具」から「子供の文具」へ

①を踏まえ、教師視点から児童生徒のICT活用状況を以下のように整理した。Step 3の文具的活用を目指し、ICT活用の主導権を児童生徒へ移していく学びづくりを工夫する。



Step2 や Step3 へ向かうためのポイント

- ▶児童生徒自身が活用の段取りを決め、試行錯誤しながら、さらには児童生徒同士で学び合う活動を取り入れる。
- ▶学習をインプット中心から、発信・表現によるアウトプット中心の学びに転換する。
- ▶活用のルールを見直す。（ルールが厳しすぎると活用が停滞することもある。）

課題解決のヒント

文部科学省や戸田市プログラミング・ICT 教育研究推進委員会等が作成した資料等を参考に、各学校の実態把握や課題に応じた取組を行う。

ICT 活用推進
ポータルサイト

【主なリンク】

- 各広域自治体作成ガイドブック等（実践事例付き）
- ICT 活用・情報モラル教育教材
- 過去の「戸田市 指導の重点・主な施策」ICT 活用に係るページ
- ICT リテラシー系統表（戸田市）
- G suite 、ロイロノート、ミライシード等のマニュアル動画資料
- 学校情報化認定チェックリスト（JAET 日本教育工学協会）
- その他資料 （今後、随時更新）

③　ICTの特性を生かした授業づくり

ICTには紙等とは異なる特性がある。例えば以下のような特性を踏まえ、ICTをこれまでの授業と融合させ、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。

ICT の特性の例

共同で編集できる

資料を共同で作成したり、操作をしながら分析したりする。

即時性がある

「すぐに」調べる、「すぐに」集計されるなど、即時性がある。

理解を深めるコンテンツがある

視覚や聴覚に訴えるコンテンツが豊富であり、理解を深めやすい。

多様な表現ができる

アプリ等を活用することで、プレゼンテーションのほか、動画、音楽、プログラミングなど様々な表現方法で学びをアウトプットする。

記録が簡単にできる

写真や動画、音声入力等を使って記録をとる。音読やスピーキング、歌唱、運動のモニターとしても活用できる。

個に応じた学習がしやすい

自分に適したペースで学んだり、興味・関心に応じた学習を進めたり、ふりかえったりしやすい。また、学習履歴などの蓄積もできる。

考え等を共有しやすい

教師の共有機能のほか、児童生徒間でファイルのやりとりをすることなど、思考の共有ができる。

やり直しがしやすい

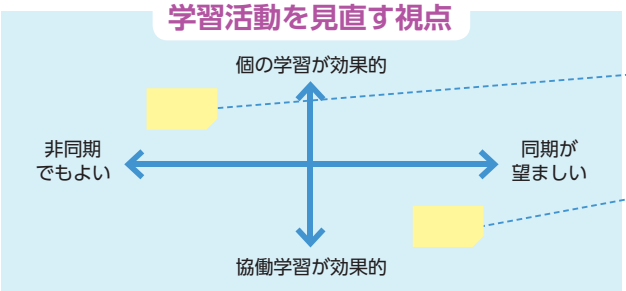
修正がしやすいというデジタルの特性を生かして、文章を推敲したり、考えを整理・分析したりする。

時間と空間の制約を受けない

オンラインを活用すると、異なる時間や場所で学習を進めることが可能になる。

④　ハイブリッド学習の推進

対面授業にICT・オンラインを適時適切に組み合わせるハイブリッド学習を推進することで、主体的・対話的で深い学びや、学習活動の重点化、カリキュラム・マネジメントの実現につなげることを目指す。ハイブリッド学習を考えるにあたっては、下の例等を参考にICTの活用を【同期・非同期】【個・協働】の軸から捉え直し、学びの本質を捉えて学習活動を再編することが必要である。



(例)

・リコーダーの技能テストでは、子供たちの練習成果をしっかり見取りたい→動画で演奏の様子を提出させることで、非同期・個でも可能

・学習の動機付けや課題設定の場面は、多様な意見を踏まえて学習を進めたい→同期・協働が望ましい

取組例① サテライト・合同授業

配信

教室 A

・授業の導入
・学習の見直し
・全体思考の共有
・まとめ
・ふりかえり　等

受信

▶各教室で全体やグループ、個の理解度に応じた支援（板書・補助発問・進捗管理・グループ編成・個別支援　等）

取組例② ブレンディッド・ラーニングの手法

【対面指導】ステーション

・教師による
インプット
・学習の見直し

【協働活動】ステーション

・グループ
・協働作業や
ピアレビュー

T2や
サポーター

【個別学習】ステーション

・AI ドリル等の
コンテンツを
活用した習熟

学級や学年等でステーションをつくり、ローテーション

学校の新しい生活様式における「考え、議論する道徳」

感染症予防下での話合いの充実

ICTの活用

・学習支援ソフトによる思考の可視化
（ロイロノートやミライシードの活用）
・オンライン会議ツール（Zoomやmeet等）を活用した話合い
→レコーディング機能で話合いの様子を保存し、振り返りや評価に活用
・共同編集機能（Jamboard　等）を活用した話合い
・デジタル教材の活用
・拡大機能や音声機能による支援
・スライドや動画を活用し、教材を視覚的に理解
・アンケート機能を活用し、共感した点や考えたい点を表示及び集約

意思表示の工夫

・ハンドサインやカードの活用
・心情グラフ、心情メーター

コロナ禍に関連した内容項目の授業の充実

A　主として自分自身に関すること
【小】希望と勇気、努力と強い意志　【中】希望と勇気、克己と強い意志
B　主として人との関わりに関すること
【小】【中】友情、信頼
C　主として集団や社会との関わりに関すること
【小】【中】公正、公平、社会正義　　家族愛、家庭生活の充実
よりよい学校生活、集団生活の充実
D　主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【小】生命の尊さ　【中】よりよく生きる喜び

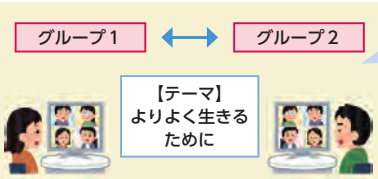
具体例の紹介

●アイデア１　ロイロノートやミライシードによる話合い

「～する」と「～しない（できない）」でカードの色を指定し、理由を書く。

同じ「～する」「～しない」であっても書いてある理由に着目することで、道徳的価値について考えを深める。

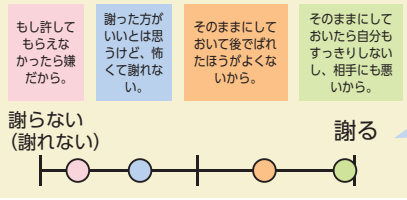
●アイデア２　Zoomやmeetを活用した交流の充実



各グループで話し合ったことをオンライン会議ツールを使用して他のグループと交流する。

【発展活用例】
①話合いの様子を録画して全体で共有（話合いの再現）
②他クラスや他学年との交流

●アイデア３　Jamboardを活用した話合い



①あらかじめWordやペイントで心情メーターを作成する。
②作成したメーターを挿入する。
③各グループでメーターと付箋を使って考えを表す。

平成30年度戸田市指導の重点・主な施策
「考え、議論する道徳」への質的転換

国際的な調査からみるエビデンスに基づいた授業改善の視点

戸田市が協力したOECDが進める国際調査であるGlobal Teaching Insight（以下、GTI）の結果が公表された。調査における授業分析の視点や分析結果における戸田市の課題を紹介する。

指導の質を高めるための

GTIの特徴

教師の指導実践に関する調査で、以下に示す６領域で授業動画を分析し、領域別に授業の構成要素や指標を定量化。（対象教科は中3数学、調査は2018年度）
※GTIは調査当時、TALIS Video Study という名称であったが、現在はGTIに変更。

調査の概要や全体的な調査結果の説明については、こちら（国立教育政策研究所HP）

指導実践の６つの領域	GTIからみる指導のポイント
授業運営	○教室全体を見渡し、様々な児童生徒に発言を求め、進捗具合を把握する。
社会的・情緒的支援	○児童生徒が間違ったり悩んだりしている場面で、**粘り強く取り組めるようフォロー**する。
対話（談話）	○「なぜ～か」や「似ているところは～」といった、理由や関連性など**思考を促す**発問をする。 ○考え（アイディア）や手続きがなぜそうであるか、詳細な特徴に焦点を当てて**理由を示す**。 ○授業中に、**児童生徒主体**のやり取りの機会をつくる。
教科内容の質	○考えや表現方法（図やグラフなど）を関連付ける。また、そのつながりを児童生徒に明確に示す。
生徒の認知的取組	○考えや手続きについて、なぜそうなるか理由を分析させたり、特定の基準に沿って評価させたりといった**認知的な活動**に取り組む機会を増やす。 ○問題等を解くために児童生徒から**複数の考え**を引き出す。
生徒の理解に対する評価と対応	○児童生徒の考えに対する**教科内容に沿ったフィードバック**を増やす。 ○発問に対する児童生徒の様々な考えを引き出し、その考えに対して**理解を促す応答**をする。

戸田市の課題

学習の過程を褒める機会を増やす
児童生徒が間違ったときに**肯定的なコメントをする**
社会的・情緒的支援のスコアが低い
間違いを恐れずに自発的に授業に関わりやすい雰囲気をつくる

推論の手法を複数提示して選ばせる
解答方法の**手続きを二つ以上提示**する
児童生徒の複数の考えを引き出すスコアが低い
児童生徒の思考の自由度を高める

ポジティブな行動支援（PBS）とは？
～望ましい行動を増やすアプローチ方法について～

〇ポジティブな行動支援（Positive Behavior Support）とは？
・・・児童生徒の望ましい行動を育てる支援方法です！

PBSの考え方のポイント
- 何か問題が起きた後に支援するのではなく、**予防的な支援**であること。
- できていないことに着目するのではなく、**できていることに着目**すること。
- 望ましくない行動を「罰則や叱責」で減らすのではなく、**望ましい行動を「称賛や承認」で増やし、**結果的に望ましくない行動を減らすこと。

PBSの考え方の前提に、児童生徒の行動の捉え方があります

「気になる行動」を3つの場面に分割した上で、
行動の前後にアプローチし、「望ましい行動」を増やすための工夫をしましょう

行動の前（きっかけ）	行　動	行動の後（行動の結果）
行動のきっかけ、状況		行動の後に何が起きたか

行動の前の工夫
①望ましい行動を起こしやすくなるような、
環境を整える工夫
※工夫の仕方はページ下部の「学習指導要領に記載されている配慮事項について」も御参照ください。
②何をしたら良いかがわかるような**指示の工夫**
（例）具体的・端的な指示、わかりやすい言い方

行動の後の工夫
①望ましい行動に近づいたときは…
具体的・即時的に褒める、承認する
②望ましくない行動のときは…
怒る・叱るなどの**過剰な反応をしない**
代わりに、望ましい行動に近づいた際に褒める

学習指導要領に記載されている配慮事項について

学習指導要領 各教科解説第４章内「障害のある児童生徒への指導」のポイント
- **「通常の学級においても、発達障害を含む障害のある児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう…」**と明記されている。
- **～な場合【困難の状態】**・**～するために【配慮の意図】**・**～の配慮をする【手立て】**のように、配慮事項が体系立てて記載されている。

例①

声を出して発表することに困難がある場合や、人前で話すことへの不安を抱いている場合には、**紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT機器を活用して発表したりするなど**、多様な表現方法が選択できるように工夫し、**自分の考えを表すことに対する自信がもてるような配慮**をする。
（小学校学習指導要領解説 国語P.160）

例②

文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合、**生徒が数量の関係をイメージできる**ように、**生徒の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるように印を付けさせたり、場面を図式化したりすること**などの工夫を行う。
（中学校学習指導要領解説 数学P.165）

学校全体で取り組むポジティブな行動支援
～実践とよくある質問～

自身のクラスや、児童生徒を想定して考えてみましょう

STEP 1

増やしたい、望ましい行動は何ですか？

望ましい行動を具体的に設定し、目標を決定しましょう。

（例）△ちゃんと話を聞く　〇話している人の方を向いて話を聞く

STEP 2

望ましい行動を増やすために、どのような支援計画を作成しますか？

望ましい行動を増やすために、事前にどのような工夫ができるか、
望ましい行動が起きたとき、クラスや児童生徒に対してどんな声掛けをするか、計画を立てましょう。

（例）望ましい話の聞き方を可視化して掲示する
できている児童生徒に対し「先生と目があっていいね」と声をかける

STEP 3

計画を実行し、行動の記録をとりましょう。

（例）朝の会の時間に教員の方を向いて話を聞いている人数をカウントする、帰りの時間に児童生徒が自己申告した人数をカウントする

STEP 4

記録をもとに計画を振り返り、成果が出たら児童生徒へのフィードバックと次の目標設定を、成果が出ない場合は計画の修正を行いましょう。

（例）成果が出た場合…成果を児童生徒に発表し、次の望ましい行動を目標設定する
成果が出ない場合…行動の前を行動の後の工夫を振り返り、計画を修正する
修正した計画で再度STEP 3へ

よくある質問

Q.望ましい行動ではないときはどうする？

A.叱って行動を減らそうとするのではなく、**反応しない**ようにします。

例えばページ上部の例の場合、「話している人の方を向かない・話を聞いていない」行動の時は、「話を聞きなさい」と叱るのではなく、望ましい行動ができている児童に着目して、具体的・即時的に褒めることが大切です。ただし、児童生徒の安全に関わることなど、すぐにその行動を止めなければいけないときは例外です。

Q.褒めるだけで指導はしない？

A.もちろん指導もします。「ただ褒めるだけ」ではありません。

PBSでは、「望ましい行動を、**ポジティブな方法で育てる**こと」を大切にしています。
ただ甘やかす、ということではありません。望ましい行動とは何かがわかるよう、的確に指示を出したり、適切な行動を明確に示したりすることは必要です。

参考資料

令和２年度指導の重点・主な施策
「気になる行動へのアプローチ」

学習指導要領
配慮事項一覧（小学校）

学習指導要領
配慮事項一覧（中学校）

PBSを導入することで、
教師も児童生徒も笑顔でいる
学級づくりが期待できます

―とだっ子　やり抜く力で　未来に夢を―

令和2年度

戸田市教育研究集録

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

中央教育審議会委員のお二人より御寄稿をいただきました。

「令和の日本型学校教育」（個別最適な学びと協働的な学び）がめざすところ

天笠　茂 氏（千葉大学名誉教授）

中央教育審議会は、２０２１（令和３）年１月２６日、『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」という「答申」をまとめた。

「答申」のエッセンスを読み取るにあたって手掛かりとなるのがサブタイトルである。「全ての子供たちの可能性を引き出す。」このキーワードは、“誰一人取り残すことのない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現”とつながり、まさに全ての子供を対象にして、特別支援学校の教育環境の改善、外国人児童生徒への対応、遠隔地教育などと関連させて理念や方策を提起している。

その上で、サブタイトルは、個別最適な学びと協働的な学びと続く。前者の、全ての子供の可能性を引き出すことと、後者の、個別最適で協働的学びがセットになっていることにサブタイトルのポイントがあり、ここに「答申」の基本的な立場がある。

そして、その手立てとして一人一台端末の導入、ＧＩＧＡスクール構想の実現、ＩＣＴ環境の整備と続く。「答申」は、ＩＣＴの活用について、これまでの実践と最適に組み合わせた有効な活用を説く一方、活用自体の目的化への留意を指摘している。

「答申」は、我が国のこれまで築いてきた学校教育のよさを受け継ぎつつ，必要な改革を躊躇なく進めることを求めている。その中心にＩＣＴを位置付け、それを基盤に日本型学校教育を発展させることが２０２０年代を通じて目指す方向とし、その全体的な姿を「令和の日本型学校教育」と称した。ただし、ＩＣＴ環境の整備は、「令和の日本型学校教育」の重要な一角を占めるにしても全体ではないことをおさえておきたい。それは、目的ではなく手段なのである。

審議の過程を通して底流をなしたものは、学校というシステムについての持続可能性への問いであった。２０３０年に向けて持続可能なシステムとしての学校の在り方を探究することであった。

その基本的な問いに対する一定の見解として、高等学校教育の見直しをはじめ、各教科等の授業時数など教育課程に係る制度、教職員の配置に関わる制度などについての改革の提起ということになる。

いずれにしても、現場からすれば、目前の新学習指導要領とこのたびの「答申」とは、あまりの距離感といったところかもしれない。しかし、新学習指導要領と「答申」は、密接に結びついており、その着実な実施が「答申」の行く末を左右することになる。

改めて、戸田市の皆様による取組に大いに期待したいと思います。

表面的・形式的な改善ではなく、原理的な見直しと刷新を

奈須　正裕 氏（上智大学総合人間学部教育学科教授）

２０２１年１月２６日の中教審答申は、「令和の」と銘打ってはいるものの、その中身を丁寧に見ていけばわかる通り、「平成の」最後に生み出された学習指導要領を十全に実施するのに必要な様々な条件整備や道具立ての補強が中心となっている。つまり、今回の答申は、新学習指導要領とは異なる新たな方針の提起などではない。

「個別最適な学び」や「協働的な学び」も、すっかり新しいものではない。「指導の個別化」と「学習の個性化」からなる「個に応じた指導」を、学習者視点から整理したものが「個別最適な学び」なのである。

こう言うと、「なあんだ。だったらすでに十分にやっていますよね。たとえば、算数の授業で、まずは７分間の自力解決、その後、みんなで話し合う。ほら、個別と協働でしょ。つまり、今のままでいいんだ」なんておっちょこちょいが必ず出る。今のままでいいのなら、わざわざ中教審で議論しないはずだというイマジネーションが、なぜわかないのだろう。

こう突っ込むと、「そうですよ。これからはね、ＩＣＴを使わなきゃ。ＡＩドリルをやるのが個別最適な学びで、ロイロノートでみんなの意見をバ～ンと大型ディスプレイに提示するのが協働的な学び。そこが違ってくるんですよね」などと言う人が出てくる。子供の「読解力」を高める前に、こういった人たちの「読解力」を何とかすべきであろう。

「学習の個性化」はもとより、「指導の個別化」もまだまだ不十分だから、再概念化してまで提起しているのである。「協働的な学び」にしても、みんなでよく話し合ってはいるが、その経験をして子供たちが「あらゆる他者を価値のある存在として尊重」（学習指導要領前文）するまでに育っているかというと、何とも心もとない。もちろん、先生たちはそう願って日々頑張っているとは思うのだが、今のやり方をこのまま続けていくだけでは、たどり着くのは困難だろう。

新学習指導要領では、内容中心から資質・能力を基盤としたものへと学力論が刷新された。目指すものが質的に変化したがゆえに、その実現手段である指導方法にも抜本的な見直しの必要が生じている。したがって、それは従来のやり方の一部を形式的に、あるいは技術論的に差し替えるといったことではなく、原理的な見直しや刷新を要する作業となる。

興味深いのは、原理的に問い直した結果、表面的には従来と大差ないように見えながら、その内実においてはすっかり刷新された指導方法や授業もまた存在するという事実であろう。今こそ、教師にも「深い学び」が求められている。その実現に向けて戸田市の学校がリーダーシップを発揮していただくことを期待したい。

戸田市教育委員会

＊挨　拶＊

戸田市教育委員会
教育長　戸ヶ崎　勤

令和２年度戸田市立教育センター教科等研究グループ（教育センター研究員）等による研究の成果がまとまりましたので、ここに「戸田市教育研究集録」として刊行いたします。

今年度は、１２４名の教育センター研究員の皆様に、「令和２年度戸田市の指導の重点・主な施策」をもとにしながら、ＩＣＴを活用した学習の在り方について研究を深めていただきました。

過日、国の中央教育審議会より『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』に関する答申が出されました。その中に今後の教師の在り方にも言及されています。今後も新学習指導要領に基づき、一人一人の子供を主語にする学校教育の実現に向けて、先生方がアクティブ・ラーナーとなり、不断の授業改善に取り組まれることを願っております。

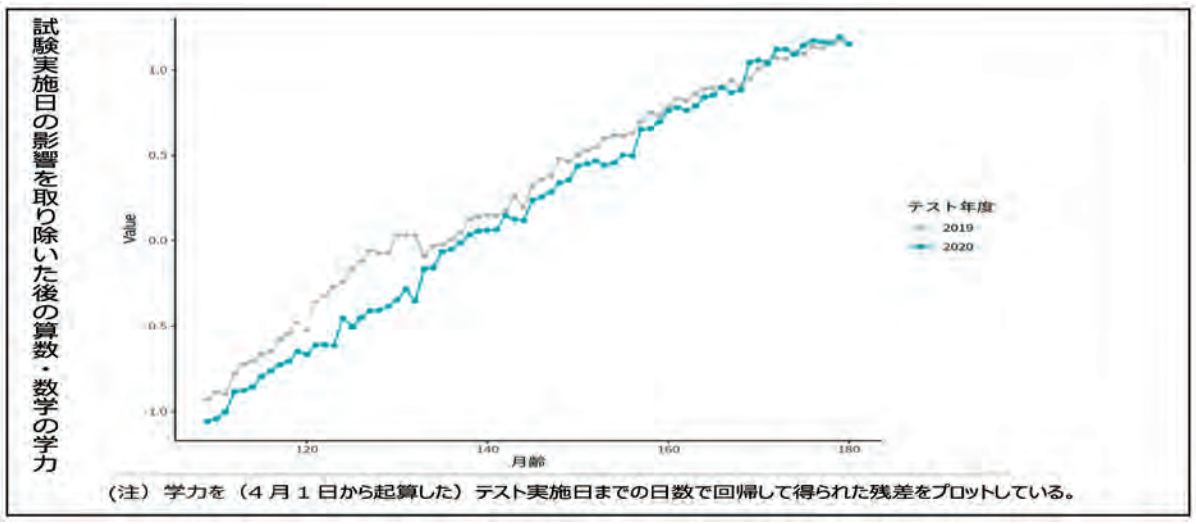
結びに、真摯に研究を進められました先生方に対し敬意を表しますとともに、多くの先生方が学校や教科等の研究、新しい学びの推進役となっていただくことを期待申し上げ、挨拶といたします。

埼玉県学力・学習状況調査分析から

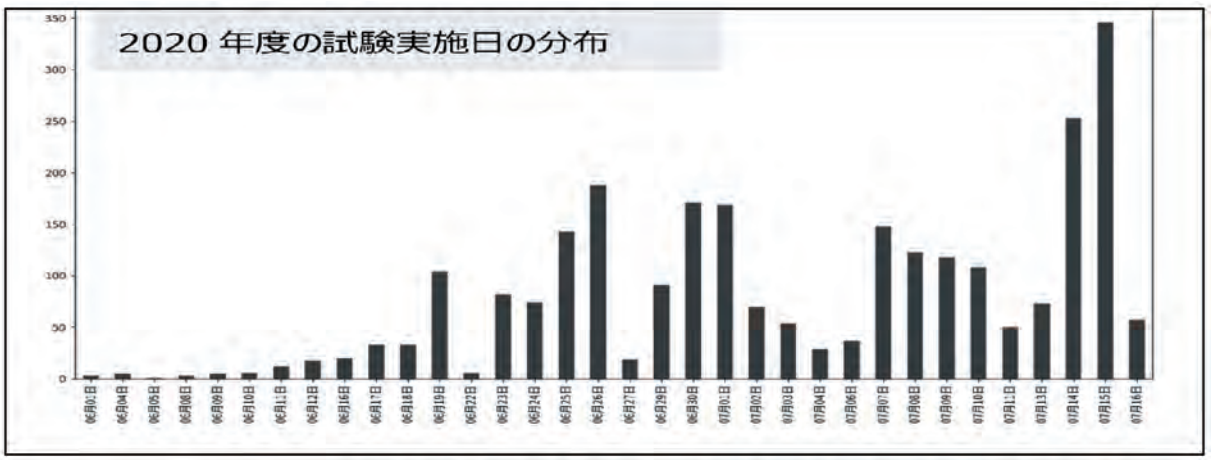
慶應義塾大学　総合政策学部
教　授　中　室　牧　子　氏

今年はコロナウィルス感染症に始まり、それに終わった年だったように思う。特に、第１回目の緊急事態宣言下で、３か月にも及ぶ臨時休校の要請が出たことは、教員・児童生徒の双方にとって大きな負担となった。今回の臨時休校が子供たちの学力や学歴、将来の賃金などにどのような影響を与えたかは、もう少し後になってからでないと評価が難しいが、過去には天候・教員のストライキ・狙撃事件などによって余儀なくされた「臨時休校」が子供の学力や学歴、将来の賃金などに与えた影響を推定したものがある。そのうちのいくつかを紹介すると、アルゼンチンで発生した８８日間のストライキによる臨時休校を経験した小学生は、学歴に負の影響があったのみならず、将来の賃金も男子で３.２％、女子で１.９％低下したことが明らかになっている（Jaume, & Willén, 2019）。

つまり、臨時休校の影響は長期にわたって持続する。また、臨時休校の影響を受けやすいのは、低学年の生徒・児童であることも分かっている。アメリカのメリーランド州で、降雪等による天候要因の臨時休校の悪影響は高学年より低学年のほうが大きかった（Marcotte, 2007）。また、休校は、理数系科目への負の影響が大きいという指摘もある。各授業の学習内容が独立している教科と比較すると、過去からの積み上げが重要なためだ（Baker, 2013）。



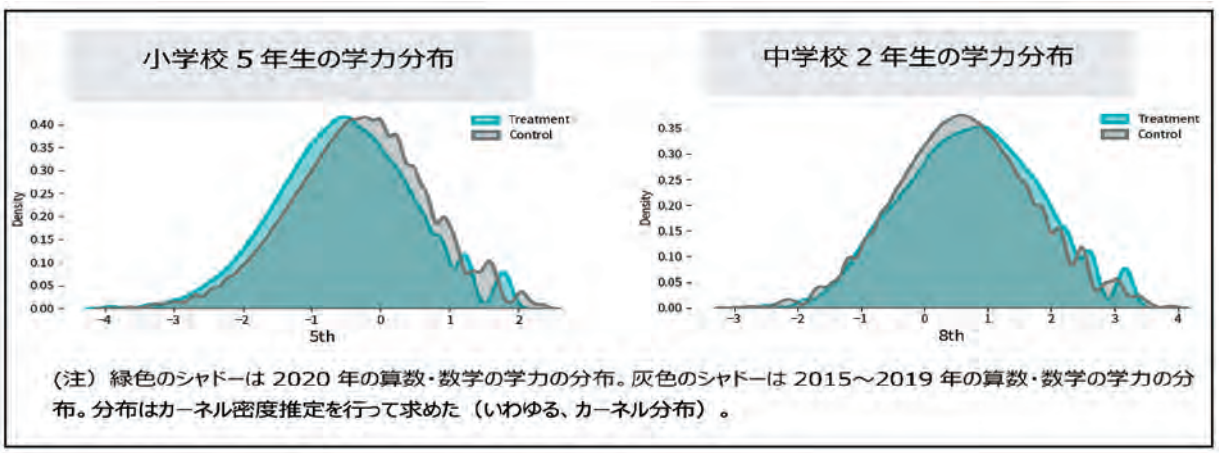
（注）学力を（４月１日から起算した）テスト実施日までの日数で回帰して得られた残差をプロットしている。



※例年は、全校が4月中旬に実施しているが、2020年度は上図のとおり学校ごとに実施日が異なる。

２０２０年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果について、昨年の２０１９年度と比較すると、小学生の算数の学力で顕著な低下がみられる。国語には同様の低下は見られないので、過去の研究が指摘するように、小学校低学年の理数系科目で負の影響があったのかもしれない。

２０１９年度と２０２０年度の学力差のすべてが臨時休校の影響によるものとは限らない点には留意が必要だが、算数・数学の学力は将来の賃金に直接影響するという研究は多い（Joensen & Nielsen, 2009; 2016; Cortes, Goodman & Nomi, 2015）。２０２１年度にこうした不利を取り返すような試みが必要ではないか。



このような中、今年度も戸田市教育委員会では、埼玉県学力・学習状況調査のデータをもとに、子供の学力を特に伸ばした戸田市内の小中学校２８名の教師にインタビューをしている。その結果からは、子供たちにとって、分かりやすい授業となるよう、指示や発問を心掛けることや、一人一人の学びを大切にするという視点から、子供たちから考えを「引き出し」「つなげ」そして「深める」ような学習活動となるよう心掛けることが有効であることが明らかとなっている。また学級風土に関わる、教室で間違っても叱られない、子供たちが安心して学べる学習環境をつくることの大切さも強調されていた。これらも参考になる取組であると言える。

リーディングスキルテストの共同研究

国立情報学研究所社会共有知研究センター長
情報社会相関研究系教授
新 井 紀 子 氏

東京理科大学
理学部第一部応用数学科准教授
松 崎 拓 也 氏

はじめに

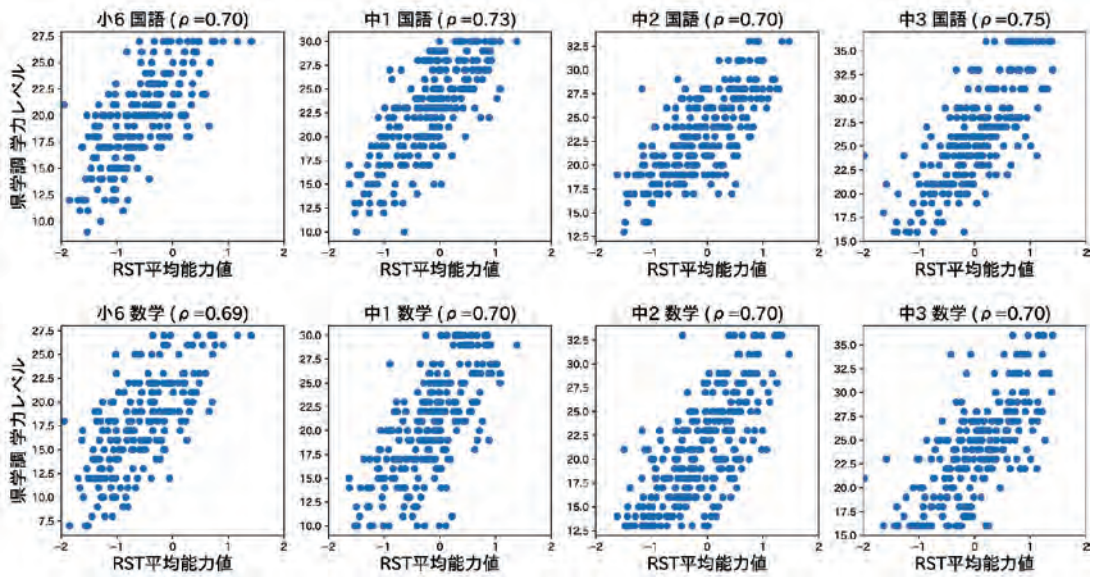
リーディングスキルテスト（RST）とは、生涯学び続けることが求められる変動の時代の基本スキルである汎用的基礎的読解力（リーディングスキル：RS）を測るためのテストです。このテストは、コンピュータ上の調査（CBT）で実施され、主述関係の読み取り（係り受け解析）や、新しい概念の理解（具体例同定）など、6タイプからなる基礎的読解スキルを測定します。とだっ子が更なる学力向上を目指せるよう、すべての能力を支えるRSを、さまざまな教科の学習を通じて育む必要があります。

◆昨年度・本年度の戸田市リーディングスキルテストの結果から

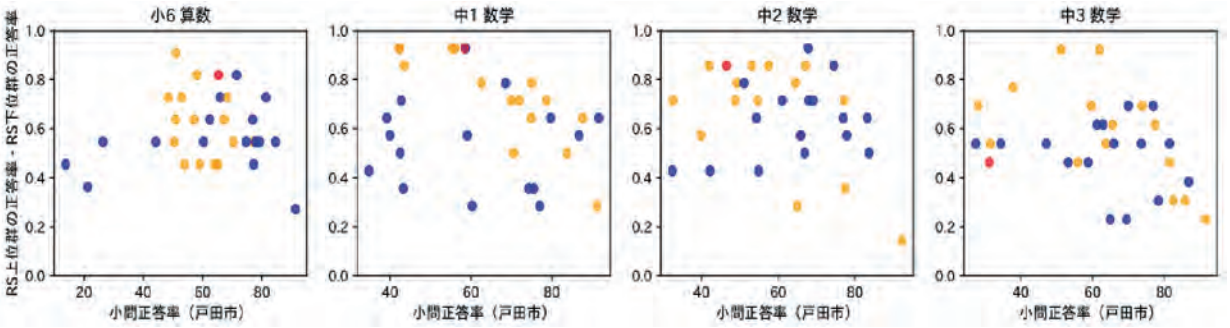
戸田市でのＲＳＴの実施は平成２８年度に開始し、５年目に当たる本年度は、校内研究でも取り組んでいる小学校３校、中学校２校が受検しました。本稿では、本年度のＲＳＴと埼玉県学力・学習状況調査（以下、県学調）の結果の関係の分析結果、および、昨年度実施したＲＳＴと語彙テストの結果に関する新しい分析結果を報告します。

（１）リーディングスキルテスト結果と県学調の相関分析

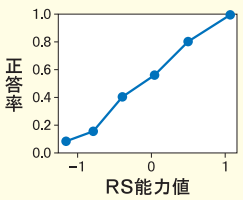
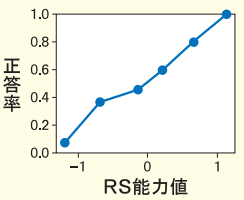
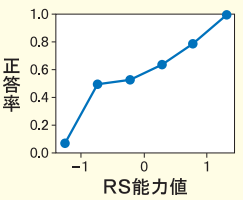
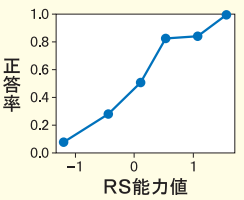
下図は、昨年度に引き続き分析した、本年度のＲＳＴ全受検者について、６タイプの読解能力値の平均値（横軸）と、令和２年度の県学調（国語および算数・数学）における３６段階の学力レベル（縦軸）との関係を図示したものです。図中のρは相関係数と呼ばれる統計値で、－１から１の範囲の値を取り、受検者の２つの特性（読解能力値と学力レベル）の関係が直線的である度合いを表します。全ての学年及び国語と算数・数学の両教科で相関係数は０.６９～０.７５の範囲であり、ＲＳと学力レベルには明らかな正の相関があることが分かります。



また、県学調の解答形式は「選択式」「短答式」「記述式」の３タイプに分かれています。この解答形式に着目し、ＲＳとの関係を調べました。まずＲＳＴの能力値に従って受検者を均等に６グループに分け、各グループにおける県学力調査の小問ごとの正答率を調べました。次に小問ごとにＡＲＳＴ能力値が最上位のグループと最下位のグループにおける正答率の差を計算し、それをΔとします。Δが大きい小問は、正しく答えられるかどうかがＲＳによって大きく分かれる問題と考えられます。各学年の算数・数学について、県学調の各小問の戸田市での正答率を横軸、Δの値を縦軸にとったグラフを次に示します。図中の各点が小問ひとつに対応し、青が選択式、オレンジが短答式、赤が記述式の小問を表します。図から、正答率がおよそ６０％以下の短答式および記述式の問題で、Δの値が特に大きくなっている傾向が分かります。



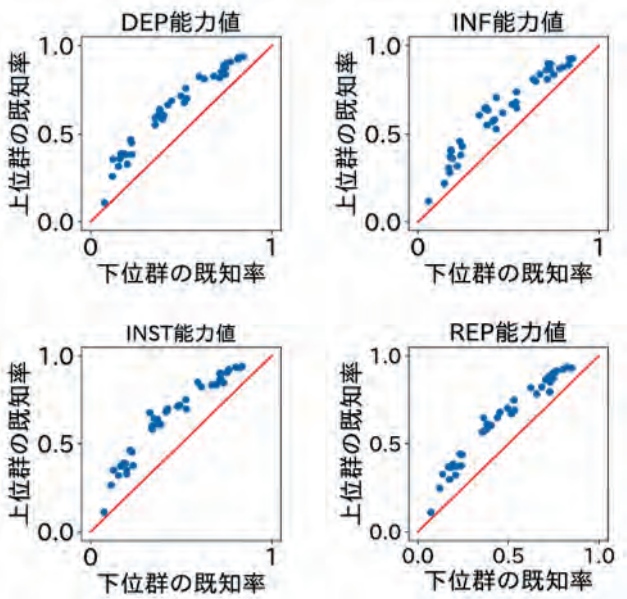
学年ごとに、県学調の算数・数学の小問のうち上記のΔが最も大きかったものを以下に示します。グラフは横軸がＲＳＴの能力値に従って分けた６グループそれぞれの中での平均能力値で、縦軸がグループ内での小問に対する正答率を表します。中２を除き、いずれも短答式・記述式の問題であり、問題内容の理解とともに、答えるべき内容を正確に把握するためにもＲＳが必要とされるものと考えられます。

小問番号	小６算数　8(1)	中１数学　5	中２数学　2	中３数学　1(8)
ＲＳＴ能力値ごとの正答率				
解答形式	短答式	記述式	選択式	短答式
正答率(戸田市)	51.0%	58.5%	67.8%	62.0%
問題の概要	基準量と比較量から割合を求める	ペンキの量から塗ることができる面積を調べる	正負の数の加減乗除の計算をし、答えが負の整数になるものを選ぶ	等式をyについて解く

（２）語彙知識とリーディングスキル

昨年度の研究結果より、教科の学習内容に関わる語だけでなく、「もとづく」「ぎゃくてん」「えいきょう」「要因」といった一般的な単語など、ＲＳを高めるためには、教科内容の学習のみでなく、様々な基本的・一般的な語を正しく身に付けることも重要であることが分かります。

この結果を、本年度さらに分析し、上記の「ＲＳＴ問題に含まれる語を既に知っている➡その問題に対する正答率が高い」という自然な関係とともに、ＲＳが高い児童生徒は調査対象とした４０語のいずれについても知っている割合が大きいという結果を得ました。右上図は、係り受け解析（ＤＥＰ）、推論（ＩＮＦ）、具体例同定（ＩＮＳＴ）、図表の理解（ＲＥＰ）の４タイプの能力値について、能力値上位１／４群と下位１／４群の児童生徒における、語彙テストを行った４０語それぞれを知っている割合（既知率）を示したものです。青い点のそれぞれが一つの単語を表します。多くの語について、上位群では下位群に比べその語を知っている児童生徒が１割程度多いということが読み取れます。この結果から、さまざまな文章に触れ多くの語彙を持つことがＲＳ全般の獲得につながることが示唆されます。



おわりに

本年度は、ＲＳを継続して測定するとともに、学力の多様な側面とＲＳとの関係を探ることができました。今後も、これらの研究蓄積を生かし、効果的な指導方法をみなさんと共に吟味していきたいと考えています。

戸田市教育フェスティバル開催
WEB会議による遠隔研修

令和3年１月8日（金）、戸田市役所にて「戸田市教育フェスティバル」を開催し、学校の教職員がWEB会議システムで配信される映像を視聴するという形式で研修を行いました。

今年度は、「これからの時代に向けた個に応じた学びの在り方」を共通テーマに、早稲田大学 准教授 松岡 亮二 氏と、Crimson Global Academy 日本代表 松田 悠介 氏をお招きしそれぞれ異なる領域の第一線のお二人に御講演いただきました。

早稲田大学 准教授
松 岡 亮 二 氏

◆教育格差社会のなかの学校現場

教育社会学は、規範的な議論の前提となる実態把握を重視する学問分野であり、私は大規模データを活用して研究を進めている。教育格差というと近年生じたものという印象を持たれるが、データを紐解くと戦後の日本は長きにわたって、生まれ（出身地域、階層、性別など）が将来の職業や収入を一定程度規定する教育格差社会であったといえる。日本社会では、小学校１年生の段階で既に一定程度の教育格差が存在しており、その格差が概ね同程度に中学校、高校卒業時まで引き継がれる。この状況は、一見すると学校教育が格差縮小機能を果たしていないようにも見えるが、学年が上がるにつれて格差が拡大するのを学校教育が防いでいる点も、見落とすことはできない。なお、海外を見渡しても学校教育が目覚ましい格差縮小機能を果たしている国は見当たらず、これは人類共通の課題であるともいえる。が、日本の学校はその理想を体現する可能性を秘めていると、私は考えている。現在進められているＩＣＴの活用も、教育活動の効率を高める上でも、実態把握に資するデータを蓄積する上でも有益であり、学校の格差縮小機能を高める第一歩になりうる。これからも、学校現場の先生方ともコミュニケーションをとり、教育社会学の知見を学校教育の現場にいかに還元するかに関心を寄せながら、研究に取り組んでいきたい。

Crimson Global Academy
日本代表
松 田 悠 介 氏

◆ＡＩ社会と教育

学校の先生方は、感染症への対応もあり多忙の中とは思うが「自分はなぜ教員になったのか」をぜひ振り返り、同僚と共有する機会を持っていただきたい。私の場合には、中学生の頃に様々困難を抱えていた時に寄り添ってくれた恩師に救われた経験が、教壇に立つ原点だった。その恩師に感謝を伝えた際にかけられた「私に恩返しするよりも、君も将来、子供と向き合える大人になってほしい」という言葉が原動力となり、今も教育のフィールドで活動を続けている。ＡＩによって少なくない職業が代替されると言われているが、教員の仕事の核となる他者への共感や、課題発見といった営みはＡＩには行うことができない。

勉強の苦手な子供だった私も、恩師の寄り添いに支えられて成長し、留学も契機となって人生が大きく変わった。ＡＩと共生する社会を生きていく子供たち一人一人が、今の姿からは想像もつかないような可能性を秘めていることを、先生方には折に触れて思いおこしていただければと思う。そして先生方には、ビジョンを更新し続ける、優先順位をつけて「やらないこと」も決める、外部資源の活用など新たなやり方も検討するという３点も意識しながら、日々子供たちと向き合っていただきたい。

スクールワイドＰＢＳの導入に関する実践報告

株式会社LITALICO
LITALICO研究所 所長 野 口 晃 菜 氏

ポジティブ行動支援（PBS：Positive Behavior Support）とは、当事者がＱＯＬ（生活の質）の向上のために行動できるよう、周囲が肯定的な方法で支援するための枠組みです。具体的には、子どもの問題行動ではなくできる行動に着目をし、ポジティブな関わりを中心とし、できない行動については、その行動ができるように事前に工夫をします。このＰＢＳに学校単位で取り組むのが「スクールワイドＰＢＳ」です。本年度、戸田市立喜沢小学校においてスクールワイドＰＢＳの導入をサポートしました。

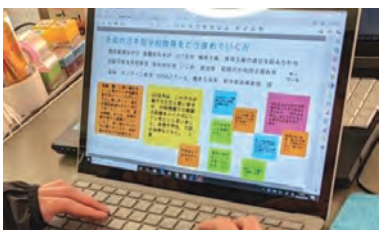
まず、学校全体でお互いに気持ちよく過ごすための「３つの大切」を決め、その後３つの大切に基づき、場面ごとの具体的な行動を決めました。その上で、毎月「キャンペーン」として一つの行動を決め、その行動が全員ができるような工夫を学校全体で取り組みました。結果、これらの行動が増加し、先生方についても、ポジティブな関わりが増えました。先生方からは「子どものできるところに目を向けることができた」「こんなにポジティブな関わりをしたのは教員生活で初めて」などの感想がありました。トップダウンでルールを決めるのではなく、大切にしたい行動を子ども・教師全員で決めること、その行動をとるための工夫を全員が共通で行うことが、多様な子どもが過ごしやすいインクルーシブな学校づくりにつながると改めて実感した実践でした。

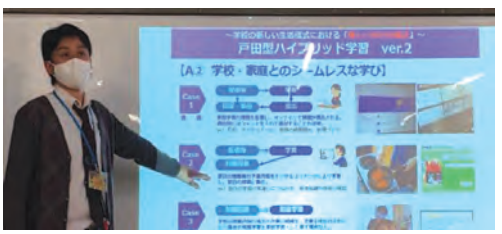
2021 TODA Education Weeks

令和３年度は、小学校に引き続き、中学校でも新学習指導要領が全面実施となる。これまでの教科指導の充実に加え、社会に開かれた教育課程の充実や教科等横断的な学びの推進がより求められている。

TODA Education Weeksは、令和３年度を迎えるにあたり、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）を深く読み込んだり、戸田市立教育センター教科等研究グループの研究成果や有識者による作成動画を視聴したりして教職員及び学校間で共有することで、新学習指導要領の趣旨やこれからの時代の教育について、より一層理解を深める期間として設定した。

戸ヶ崎教育長による答申伝達講義


Jamboard を使用してのディスカッション



学校における伝達研修

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

Education Weeks内では、各学校の特色を生かした独自の取組も多数行われました。

- オンライン授業参観及び懇談会
- 倫理確立委員会
- ICT活用研修会
- 授業研究会 等

【有識者作成動画視聴】

①ICTをマストアイテム化した学び
②実社会と教室をつなぐ学び
③これからの学習評価の在り方
④学校の働き方改革
⑤多様なニーズに応じた教育

戸田市教育政策シンクタンク

戸田市教育政策シンクタンクでは、様々な産官学連携を進め、教育改革や学校現場において有用な知見を得られるよう調査・研究事業を進めています。ここでは、2019年度に希望する学校で実施したAiGROW（創造性や自己効力、共感・傾聴力などのコンピテンシーを客観的に測定するアセスメント）の分析結果の一部を紹介します。

学力とコンピテンシーの関係

全体的に正の相関がありました（学力が高いとコンピテンシーも高い）。特に、小学校では論理的思考、中学校では論理的思考、課題設定、疑う力、表現力でその傾向が強く、これらのコンピテンシーは学力向上のための授業改善に位置付けると効果的と考えられます。一方、その他のコンピテンシーを向上させるには学校の取組や学級経営等に意図的に位置付けることがより重要となります。

	創造性	論理的思考	個人的実行力	自己効力	共感・傾聴力	決断力	疑う力	課題設定	耐性	表現力	柔軟性	影響力の行使	地球市民
小_国語	0.399	0.478	0.389	0.360	0.372	0.353							
小_算数	0.373	0.429	0.368	0.354	0.324	0.332							
中_国語	0.373	0.488	0.382	0.335	0.364	0.385	0.443	0.442	0.277	0.429	0.385	0.334	0.385
中_数学	0.408	0.515	0.398	0.381	0.333	0.397	0.450	0.454	0.286	0.464	0.376	0.375	0.398
中_英語	0.387	0.557	0.419	0.377	0.383	0.436	0.466	0.474	0.309	0.469	0.417	0.372	0.410

（表中の数字は相関係数、赤字は比較的強い相関関係があったことを示す。学力は平成31年度埼玉県学調結果を利用）

コンピテンシー向上に有効と考えられる取組

創造性	複数人、男女混合、多様性、単元ごとなど、グループ分けを意識して指導に取り入れる。心理的安全性を考え、同質性も考慮する。
自己効力	担任が毎日の帰りの会で１人ずつ、皆に見えていないところを褒める。「先生は常に見てくれている」という安心感と代理成功体験につながる。
共感・傾聴力	男女間の心理的安全性が確保された状態でグループ活動を行い、意見を否定せず褒め合う。教員役や1年生役など、相手の立場になり切る活動も有効である。

コンピテンシーが向上したクラスの担任の先生方に、日常の実践についてヒアリングを行いました。その結果を以下の表に示します。

論理的思考	市のプログムや思考ツール、ＩＣＴを活用し、結論を導いた理由付けやプレゼンテーションを行う。
個人的実行力 決断力	新しいイベントの立ち上げや学年縦割り活動のリーダーなど、経験したことのない役割を一人一人主体的に行う。

【ＰＢＬ】実践を止めない ～コロナ禍を糧に飛躍の年へ～

― 困難を糧に自走しはじめる学校と子供たち ―

今年度は、コロナ禍という未知の課題に直面する中で、正解のない課題を見付け、解決し、未来を切り拓く力の育成を目指すＰＢＬ型の学びの必要性が再認識され、各学校における実践が加速化した一年になりました。

特に、子供が主体となり、コロナ禍における自分や誰かの課題解決をするための様々なプロジェクトが多く立ち上がりました。例えば、林間学校に行けなかった子供たちが、「新しいかたちの思い出作り」をテーマに、プログラミングによるミニ映画を制作して鑑賞するイベントを企画したり、臨時休業期間を経て自主的な学びの重要性を感じた子供たちが、イエナプランのブロックアワーを学年内に導入し、自分たちの自主性伸長に取り組んだりするプロジェクトなどが行われました。また、こうした取組の中でＩＣＴが課題解決のツールとして探究の各過程に適切に位置づくようになりました。オンラインによるアンケート調査や学校外の専門家との遠隔交流、ホームページやＳＮＳ等による発信、クラウドを活用した共同編集作業など、社会に開かれた学びや協働的な学びの実現に向けＩＣＴが効果的に活用されていました。

こうした学校や子供たちの取組を伴走する形でバックアップするため、教育委員会は外部アドバイザーのコーディネートや担当指導主事等を学校に派遣をした他、夏季研修会として「ＰＢＬ研修会」をのべ２日間、講師２名体制に拡充するなどの支援を行いました。
また、ＰＢＬの成果発表の場となる「プレゼンテーション大会」も緊急事態宣言下において、オンラインによるライブ配信によって開催しました。

子供も大人も、コロナ禍を「プロジェクト」と捉え、未知の課題に対して自分たちができることを考え、粘り強く解決に取り組んだ結果、多くの素晴らしい実践に繋げることができました。

一人一台端末時代の単元・授業デザインに向けて

益川　弘如氏　（聖心女子大学現代教養学部教育学科教授）

新型コロナウイルスの蔓延は、常に変動し、不確実で、複雑で、曖昧なVUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）の世界だと改めて実感させられる。GIGAスクール構想の前倒しによって、一人一台端末環境の整備も完了する。いかに学校は変わっていくべきか。新学習指導要領の教育目標は、教科書の内容を「知っていること」から学ぶことで課題が解決「できるようになること」への転換、すなわち「新たな知識を生み出す力」の育成である。鍵は、「知ること（答え探し）」と「できること（答えづくり）」を分断的に捉えないことである。

分断的な考えでは、教科書の基礎的内容を「知っていること」が次に繋がると捉え、直接的に教え、その範囲内で個別最適に練習させ、小テストをクリアさせる。その後、多様な文脈とつなげた課題解決や調査活動に取り組ませる協働的な学びを体験させて児童生徒の満足度を上げ、「きっと、できるようになっただろう」とする。

一体的な考えでは、「できるようになる」ためには教科書の内容の深い学び（意味や根拠、他文脈や領域との関連）が大事とし、多様な文脈の課題に対して協働的な学び、対話を通して自分と他者の考えを比較するなどして、「こういうことなんだ」という形で「できるようになる」適用の仕方と共に個別に納得していく活動に取り組ませる。その学びの思考過程を丁寧に見取り次の授業づくりにつなげ、必要と感じた文脈で個別に練習を行う。

中教審の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、個別最適な学びと協働的な学びは一体的に行うことが大事だとしている。一体的に行う中で、協働的な学びを支援するツールやオンライン学習などを上手く活用していきたい。

教科等研究グループ各部会からの報告

国　語　部　会

主体的・対話的で深い学びを、児童生徒が実現できる授業づくり
～国語科におけるICTを活用した授業づくり～

■研究内容

【指導案を持ち寄り、指導法の共有や協議】

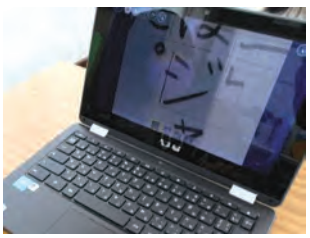
・学校での新しい生活様式に適した主体的・対話的な国語の授業にするためのICTの活用について

■研究成果

・学年や「話す･聞く、読み、書き、書写」の分野を検討してＩＣＴを使用することで、児童が主体的に学べる授業作りができ、児童の学習意欲の向上につながった。

・文章を書くことに苦手意識のある児童に対して、ＩＣＴを活用することで効果的な支援につながり、児童が主体的に活動するきっかけとなった。

・ICTの活用に慣れていないことで取り組み状況に個人差が出た。様々な教科で積極的に使い、慣れる必要がある。



社　会　部　会

問いをもち、考えが深まる普段の授業づくり

■研究内容

・学習問題につながる問いの導き出し方

・「まとめ」での整理・思考ツールの活用方法

・調べる方法・バリエーションについて

■研究成果

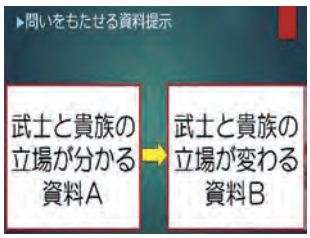
・問いを導き出す際の言葉がけ「何が分かる？」「ということは、どんなことが言える？」

・教材をどう見るか。何を資料とするか。

・資料の提示方法で思考が変わる。

・振り返りをすることで学びが深化する。

・学びを広げる問い、導く問い、狭める問い。



算数・数学部会

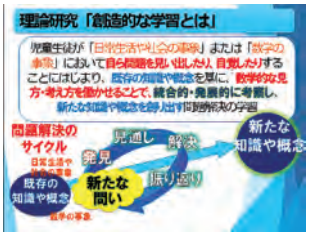
創造的な学習による21世紀型スキルの育成
～主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善～

■研究内容

・創造的な学習の考察、授業実践の検討
・主体的・対話的で深い学びの在り方
・統合的・発展的な考察を含んだ「数学的な見方・考え方」

■研究成果

・児童が自ら問題を見いだしたり自覚したりする問題提示、統合的・発展的な考察を含む数学的な見方・考え方を働かせる授業展開、深い学びを促す、対話と協働の場の設定等の工夫をすることで、創造的な学びが構築され２１世紀型スキルの育成につながることが検証できた。
・主体的・対話的で深い学びの実践を協議することができた。



体育・保健体育部会

『○○』の育成に効果的なICTの活用

■研究内容（○○の部分を各研究員で検討）

・知識及び技能の習得に向けたICTの活用
・ＩＣＴによる思考力、判断力、表現力等の育成や見取り等

■研究成果

・比較・分析するためのツールとして活用することで、活動の様子や友達の姿から良い点を視覚的に捉えやすくなり、知識･技能の習得につなげることができた。
・ペア、グループで動画を見合い交流することで、良い意見を取り入れたり、動きを工夫したりする姿が見られ、思考力、判断力、表現力等の伸長が図られた。また、学習者、指導者ともに学習内容・活動を電子で蓄積することで、振り返りや個々の児童生徒の技能習得状況の把握、評価等の適正化が図られた。

外国語活動・外国語部会

主体的な学びを実現するICTの活用

■研究内容

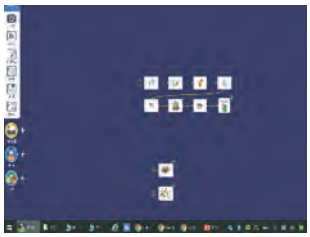
・ICTを授業者が活用した授業実践例の研究
・ICTを学習者が活用した授業実践例の研究
・今年度、研究をしてきた内容を小・中学校で共有・活用してもらうかについての検討

■研究成果

・今までも授業者がＩＣＴを（ＴＶやタブレット等）を活用した授業はあったが、今回は児童がＩＣＴを効果的に活用し、学習の効果を上げる実践について時間をかけて協議・共有することができた。
・一人一台タブレットを持つことを見据え、外国語活動の学習におけるICT活用例を集めることができた。

離れた教室からzoomを使用してのコミュニケーション場面

ロイロノートを活用しての外国語活動（お店屋さんごっこ）



プログラミング･STEAM教育部会

プログラミング的思考の育成
『やってみよう』『広げてみよう』

■研究内容

・各学校の実践共有と実践のブラッシュアップ。
・新たなプログラミング教材の研究
（ソニー・ビジネスソリューション社と連携した教材「MESH」体験会など）

■研究成果

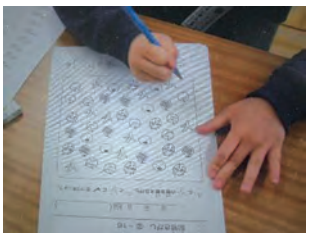
・実践共有を通して、新たな単元開発や教材の活用方法について既存と異なるアプローチを行うなど、多様な実践の在り方について研究が深まった。
・PBL-STEAMの視点から、課題解決の手立てや学びのアウトプットとしてのプログラミングの可能性を見出すことができた。

特別支援教育部会

配慮を要する児童への個に応じた指導方法の工夫
～一人一人に寄り添った支援方法について～

■研究内容
・個に応じた教材・教具の工夫
・配慮を要する児童の事例検討

■研究成果
・自立活動などの課題に応じた工夫した教材教具について紹介し合い、協議を行った。他校の実践を知ることができ、授業改善に役立てることができた。
・配慮を要する児童の事例検討を通して、具体的な支援策が出された。事例検討で提案された支援を実際に行うことで、児童の行動の変容につなげることができた。

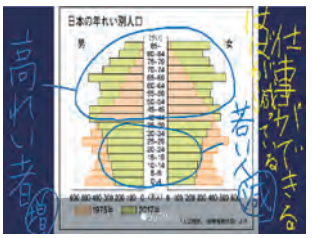


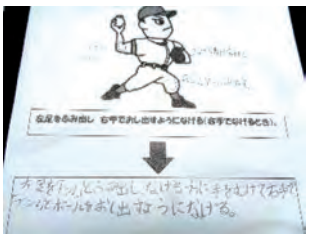
リーディングスキル部会

リーディングスキルを育むために

■研究内容
・リーディングスキルの視点を生かした授業実践を基に、リーディングスキルを高めていくことのできるような発問や手立てを探る。

■研究成果
・国語や体育等、様々な教科における実践のアイデアを共有することができた。また、小・中の教員がそれぞれの視点からリーディングスキルについて検討することで、今後の実践につながる視点を得ることができた。
・児童・生徒の読みのつまずきが見えてきたことで、それに応じた指導や支援を考え、授業改善につなげることができた。





イノベーション教育・PBL 部会

ワクワク つながる イノベーション
～もう一度、PBLを問い直す～

■研究内容
・株式会社WiL シニアディレクター 遠藤慶太郎様による理論研修
・９年間を見通したカリキュラムモデルの作成

■研究成果
・遠藤様による理論研修を通じ、ＰＢＬ実践のための新たな知見を得ることができた。
・各学校の多様な実践事例について交流することができ、戸田型ＰＢＬの考えを深めることができた。
・９年間を見通したカリキュラムモデルについて協議を重ね、各ブロックのモデルを作成できた。
・研究成果を動画にまとめ、発信することができた。

ペアトレ・MIM部会

ペアレントトレーニングで切り拓く親子の未来・MIMの継続調査から見えた読みの力

■研究内容
・ペアレントトレーニングの成果と課題
・ＭＩＭの分析および支援について

■研究成果
・ペアレントトレーニングの実施方法の共有
・ペアレントトレーニングの成果と課題の共有
・ＭＩＭについての理解を深める
・ＭＩＭの結果分析の共有
・ＭＩＭの成果と課題の共有
・ＭＩＭの結果からの支援方法について

戸田市の教育に期待すること

21世紀型スキル育成アドバイザー、PBL／STEAM 教育アドバイザーの皆様から激励のメッセージをいただきました。

株式会社リバネス　キャピタル取締役
リバネス教育総合研究所 主席研究員
森安　康雄 氏

今年度は小学校新指導要領が実施されました。センター研究会などを通じて何年も準備してきたＳＥＥＰなどの取組が、ＧＩＧＡスクールの後押しも受け、まさに開花する矢先に地球規模でのコロナ禍に直面したわけです。戸田市では、すぐさま「新しい学びの様式」に対応して、総力でオンライン学習に取り組まれました。それが可能だったのは先生方に蓄積があったからに他なりません。やったことがないのでと尻込みするのではなく、やったことがないけどやってみようと踏み込むことは、まさに２１世紀の子供たちに求められる力に他なりません。慣れないことに懸命に取り組む先生方の姿こそ、子供たちの最高の学びの糧となったのではないでしょうか？結果は百点満点ではないかもしれません。でもそれはまだ伸び代があるということです。先生方にはこれからもそういう成長マインドセットを持ちチャレンジを続けていただければと思います。

株式会社情報通信総合研究所
ＩCT創造研究部　特別研究員
平井　聡一郎 氏

昨年度末からのコロナによる臨時休業は学校も含め、社会全体に変化は当たり前、常識からの脱却という意識変化をもたらしました。それは変わっていい、変わらなきゃいけないという意識改革と言えます。さらに学校に行けないという非日常は、学校、教室でしかできない学びとは何か問いかけてきました。そして、そのような時期だからこそ、常に日本の教育をリードした戸田教育に私は注目しています。常に一歩先んじてきた戸田市の先生方だからこそ見える教育があると考えているからです。それは、一人一台のＩＣＴ機器環境だからこそ実現できる新たな授業デザインの創造です。それこそが戸田市の掲げるＳＥＥＰによって実現する学びの姿と言えるでしょう。常にチャレンジする戸田教育、そしてそれを支える先生方お一人お一人に期待を込めてエールを送ります。

フューチャーインスティテュート株式会社
代表取締役
教育ＩＣＴリサーチ　主宰
セサミストリート・ティーチャー
為田　裕行 氏

児童生徒にとっても先生方にとっても、本当に大変な1年が過ぎたように思っています。コロナ禍によってオンライン授業、密にならない学習活動、ＧＩＧＡスクール構想の前倒しなど、本当にいろいろなことが起こった１年間でした。その間、戸田市の教育が「学びをとめない」ことを目指し、さまざまなチャレンジをしてきたのを見せていただきました。戸田市の学校は、「“できること”をする」のではなく、「“しなければならないこと”をする」ために、努力を続けてきました。

まだまだ社会の形は変わり続けていくでしょう。そのなかで、戸田市の教育に期待するのは、子どもたちが生きる１０年後、２０年後を見据えた学校づくりです。学校は、変わっていく社会に対応して、自分らしく生きられる力を身に付けられる場であり続けてほしいと思います。

インテル株式会社
パブリックセクター・スマートシティ 事業推進部
教育事業推進担当部長
竹元　賢治 氏

戸田市のＰＢＬ（プロジェクト型学習）の研究・実践、ならびに推進体制はＩＣＴ教育とともに国内トップランナーとして全国から注目されております。それは、我々オトナが解決できずに先送りする課題やこれから噴出する課題群を子どもたちは、我々が思いつかないアイデアを創造し、さらに進化したテクノロジーを活用し、新たな解決手法を用いて世界中の人々とともに解決していく必要があります。そのために我々に出来ることは、現在我々が持ちうる全ての知識や技能、能力、また環境すべてを彼らに提供する必要があります。ＰＢＬによる探究や課題解決の学びはまさにそのためです。ぜひＰＢＬの学びを通じて、とだっ子が自ら未来を切り拓くチカラを育んでください。

株式会社WiL
シニアディレクター
遠藤　慶太郎 氏

新学習指導要領が実施され、さらにコロナ禍の中、これまで常識とされてきた知識や方法論、価値観が当てはまらない状況を実感する1年だったかと存じます。そのような中でも、戸田市教員の皆様が、あらゆる教科、学年においてＩＣＴを活用し、新しい学びの取組に挑戦されている姿を拝見し、大変頼もしく、感激いたしました。

誰もが多様な人々と協働し、主体的に問題解決を行い、新しい価値を創造することが求められる社会において、ＰＢＬ型の学びはより一層重要性を増すものと思われます。ＰＢＬの実践には実社会との連携が重要であり、外部の協力は不可欠です。子どもたちが世界に目を向けるきっかけを作るためには、先生方には世界と学校を繋ぐ越境人材としての役割が期待されています。子どもたちの未来のためにも、戸田市教員の皆様には是非世界を巻き込み、挑戦し続けていただきたいと期待しております。

令和２年度　戸田市教育研究集録
●発行日：令和３年３月３０日　●編集発行：戸田市教育委員会　〒335-8588 戸田市上戸田１－18－1
▼戸田市教育委員会公式 Facebook
https://www.facebook.com/todaedu

報告事項⑦

令和3年度　学校公開日等一覧

小学校		学校公開等（4～7月）		学校公開等（8月以降）		修学旅行			林間学校			運動会					
		計画日	振替休業日	計画日	振替休業日	出発日		帰校日	出発日		帰校日	計画日	予備日	振替休業日			
1	戸田第一小			10月30日(土)	11月1日(月)	8月27日(金)	～	8月28日(土)	9月15日(水)	～	9月17日(金)	10月2日(土)	10月5日(火)	10月4日(月)			
2	戸田第二小	5月22日(土) 5月29日(土)	5月24日(月) 5月31日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	9月15日(水)	～	9月16日(木)	7月19日(月)	～	7月21日(水)	5月22日(土) 5月29日(土)	5月25日(火) 6月1日(火)	5月24日(月) 5月31日(月)			
3	新曽小	6月26日(土)	6月28日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	8月30日(月)	～	8月31日(火)	7月12日(月)	～	7月14日(水)	5月22日(土)	5月28日(金)	5月24日(月)			
4	美谷本小	6月12日(土)	6月14日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	8月26日(木)	～	8月27日(金)	7月28日(水)	～	7月30日(金)	5月22日(土)	5月23日(日)	5月24日(月)			
5	笹目小	6月12日(土)	6月14日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	9月2日(木)	～	9月3日(金)	8月4日(水)	～	8月6日(金)	5月22日(土)	5月25日(火)	5月24日(月)			
6	戸田東小	5月22日(土)	5月24日(月)	10月23日(土)	10月25日(月)	9月7日(火)	～	9月8日(水)	7月26日(月)	～	7月28日(水)						
7	戸田南小	5月22,29日 （体育発表会と兼ねる）	5月24,31日	10月30日(土)	11月1日(月)	8月25日(水)	～	8月26日(木)	7月14日(水)	～	7月16日(金)	5月22・29日	5月25日・6月1日	5月24・31日			
8	喜沢小	6月26日(土)	6月28日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	8月26日(木)	～	8月27日(金)	9月8日(水)	～	9月10日(金)	5月22日(土)	5月25日(火)	5月24日(月)			
9	笹目東小	6月26日(土)	6月28日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	8月26日(木)	～	8月27日(金)	7月14日(水)	～	7月16日(金)	5月29日(土)	6月1日(火)	5月31日(月)			
10	新曽北小	6月12日(土)	6月14日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	未定			9月1日(水)	～	9月3日(金)	10月30日(土)	11月2日(火)	11月1日(月)			
11	美女木小	6月26日(土)	6月28日(月)	10月30日(土)	11月1日(月)	8月30日(月)	～	8月31日(火)	9月8日(水)	～	9月10日(金)	5月29日(土)	6月1日(火)	5月31日(月)			
12	芦原小	5月7日(金)	なし	10月30日(土)	11月2日(火)	9月3日(金)	～	9月4日(土)	7月19日(月)	～	7月21日(水)	6月5日(土)	6月8日(火)	6月7日(月)			

中学校		学校公開等（4～7月）		学校公開等（8月以降）		修学旅行			スキー教室			体育祭			社会体験チャレンジ		
		計画日	振替休業日	計画日	振替休業日	出発日		帰校日	出発日		帰校日	計画日	予備日	振替休業日	開始日		終了日
13	戸田中	5／25・26・28	なし	10月23日(土)	10月25日(月)	6月16日(水)	～	6月18日(金)	2月2日(水)	～	2月4日(金)	9／15・16・17	9／21・22	なし	11月9日(火)	～	11月11日(木)
14	戸田東中	9月4日(土)	9月6日(月)	10月23日(土)	10月25日(月)	6月9日(水)	～	6月11日(金)	1月31日(月)	～	2月2日(水)	5月29日(土)	なし	5月31日(月)	9月8日(水)	～	9月10日(金)
15	美笹中	6月5日(土)	6月11日(金)	10月23日(土)	10月25日(月)	6月7日(月)	～	6月9日(水)	2月8日(火)	～	2月10日(木)	9月18日(土)	9月22日(水)	9月24日(金)	2月8日(火)	～	2月10日(木)
16	喜沢中	6月5日(土)	6月7日(月)	10月23日(土)	10月25日(月)	6月13日(日)	～	6月15日(火)	2月8日(火)	～	2月10日(木)	学年毎			9月1日(水)	～	9月3日(金)
17	新曽中	6月26日(土)	6月28日(月)	10月23日(土)	11月5日(金)	5月30日(日)	～	6月1日(火)	2月2日(水)	～	2月4日(金)	未定			11月16日(火)	～	11月18日(木)
18	笹目中	6月5日(土)	6月7日(月)	10月23日(土)	10月25日(月)	5月20日(木)	～	5月22日(土)	1月30日(日)	～	2月1日(火)	9月18日(土)	9月21日(火)	9月24日(金)	12月7日(火)	～	12月9日(木)

報告事項⑧

令和3年度　南部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問の予定

	学校名	月　日	曜日	研究授業の教科等
1	戸田東中学校	5月17日	月	総合
2	新曽中学校	5月19日	水	総合
3	芦原小学校	7月1日	木	生活・総合
4	美女木小学校	7月5日	月	国語
5	戸田中学校	7月12日	月	社会
6	喜沢小学校	9月27日	月	生活・総合
7	笹目小学校	10月1日	金	国語
8	喜沢中学校	10月6日	水	道徳
9	戸田第二小学校	10月18日	月	生活・総合
10	笹目中学校	10月29日	金	外国語
11	美笹中学校	11月1日	月	国語
12	笹目東小学校	11月4日	木	生活・総合
13	戸田南小学校	11月12日	金	総合
14	新曽小学校	11月15日	月	生活･総合
15	戸田東小学校	12月16日	木	生活・総合
16	新曽北小学校	12月20日	月	公開授業教科のいずれか
17	戸田第一小学校	1月25日	火	生活・総合
18	美谷本小学校	1月27日	木	生活・総合

報告事項⑨

彩湖自然学習センターの一部再開（３月２２日から）について

彩湖自然学習センターでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和３年１月１２日（火曜）から臨時休館していたが、緊急事態宣言が解除されたことに伴い、３月２２日（月曜）から以下のとおり感染防止対策を講じた上で、一部の展示室を再開する。

１　再開日

令和３年３月２２日（月）から

※令和３年３月２２日（月）は第４月曜日の休館日に当たることから、開館は３月２３日（火）から

２　開館時間

午前１０時～午後４時３０分（第２、４、５月曜日及び月末日は休館）

３　再開する展示室

・１階「水中のふしぎ」（ミニ水族館）

※ドクターフィッシュの触れ合いコーナーは、当面の間休止

・４階「学習室」（彩湖自然学習センター　自然写真展）

・５階「荒川のすがた」（屋上広場を含む）

※２階「水辺のふしぎ」、３階「草原・湿原のふしぎ」、４階「林のふしぎ」は体験型の展示が主であるため当面の間閉鎖

※２階、４階のトイレは利用可。４階給水コーナーは利用不可とする

４　感染防止対策

（１）来館者への事前周知

・発熱や風邪症状のある方には来館をご遠慮いただく。

・館内のケース及び展示資料には、触れないよう注意喚起する。

・マスクの着用及び手指の消毒をお願いする。

・来館者の密集見学を防止するため、分散して見学することとする。

・大人数・団体での来館はご遠慮いただく。

・混雑状況により入館制限、時間制限をすることがある。

・感染者が発生した場合を考慮して、入館者のお名前、ご連絡先を「入館者カード」任意で記入していただいています。

・国「新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA」及び埼玉県「埼玉県 LINE コロナお知らせシステム」の接触確認アプリの導入、利用を推奨いたします。

・引き続き、入館者カードをご利用いただくこともできます。

（２）密閉・密集・密接を避けるための対応

・館内は、サーキュレーターにより空気を対流させるよう努める。

・展示室内で一時期に入館できる人員を２０名程度とし、ソーシャルディスタンス（人と人との距離）を十分にとれるよう入口で調整する。

（３）接触感染リスクへの対応

・来館者が使用できる手・指消毒液を設置する。

・館内の手すり、トイレのドアノブ、エレベーターボタン等は定期的に消毒を行う。

（４）職員の衛生対策

・マスクやフェイスシールド等を着用し、体調管理に努める。

・手洗い・咳エチケット等を積極的に行い、またその啓発に努める。

令和3年度 戸田市民大学認定講座 受講生募集

青山学院大学・戸田市連携講座

テーマ「 日本の国際関係の新展開 」

世界とインド太平洋地域の変動を踏まえて、日本がいま直面する国際関係の課題と日本がとるべき針路について考えてみませんか。青山学院大学のアカデミックな講義が本市で受けられます。気軽にご参加を！

回	期　日	テーマ	講　　師	会　場
1	5月１５日（土） ※市民大学 開講式あり	「インド太平洋時代」の日本外交	青山学院大学　国際政治経済学部 国際政治学科　教授 菊池　努　氏	文化会館 304会議室
2	5月２２日（土）	バイデン新政権と日米関係の課題と展望	慶応義塾大学　総合政策学部 教授 中山　俊宏　氏	
3	5月２９日（土）	中国から見た日中関係ーその重要性と課題	青山学院大学　国際政治経済学部 国際政治学科　教授 林　載桓　　氏	
4	6月5日（土）	核廃絶に向けた国際的取り組み	青山学院大学　国際政治経済学部 国際政治学科　教授 阿部　達也　氏	

時　　間　午後２時～３時３０分　※１回目のみ開講式があるため午後２時～３時４０分

対象・定員　市内在住・在学・在勤者　４０名

※市公式 YouTube でも視聴できます。
（期間限定・申込者限定公開。定員なし）

生涯学習マスコット
マナビィ

費　　用　無料

認定単位数　４単位

お申し込み
- ４月１日（月）8:30 より申込みを開始します。先着順。右下の二次元コードからお申込みいただけます。電話またはメールでのお申込みの際は、講座名・氏名・年代・電話番号、受講資格（市内在住・在勤・在学のいずれか）、受講方法（会場参加または動画視聴）を明記してください。
- 動画視聴をご希望の方には、お申込みいただいたメールアドレス宛にＵＲＬをお送りします。動画の録画や二次使用は禁止します。

持　ち　物　筆記用具、市民大学受講票（持っていない人には希望により初日に配布します。

【お申込み・お問合せ先】
戸田市民大学事務局　（教育委員会 生涯学習課内）
電　話　048−441-1800（内線　342）
メール　kyo-syogaigaku@city.toda.saitama.jp

お申込みは
こちら